九条の樹

83号
2020年3月発行

発行：東久留米「九条の会」　連絡先：TEL 042-473-9489（鈴木）
URL：http://higashikurume-9.net　mail：higashikurume9@jcom.home.ne.jp

安倍9条改憲NO！

改憲発議STOP

「改憲発議に反対する全国緊急署名」始まりました。

先の参院選で改憲派が発議可能な3分の2の議席を失ったにもかかわらず、安倍首相は臨時国会終了後の記者会見（12月9日）で「必ずや私の手で（改憲を）成し遂げていきたい」と語り、自らの自民党総裁任期の2021年9月までに実現する決意を語りました。

この安倍首相がめざす改憲スケジュールからみて、安倍改憲をめぐるたたかいは2020年の通常国会、臨時国会、2021年の通常国会の間に「改憲発議」と「国民投票」を許すかどうかの正念場になりました。この安倍首相の企ては絶対に阻止しなければなりません。

安倍首相はこの記者会見で「時がきたと考えれば躊躇なく解散総選挙を断行する」とも述べました。この期間に衆議院議員総選挙に踏み切る可能性が濃厚です。改憲派は時期と条件を選んで、改憲を訴える総選挙を断行することができます。首相はそこで圧勝すれば、自らが企てる改憲が世論に支持されたと強弁し、改憲に反対している野党を分断し、両院で改憲に賛成する議員を3分の2以上確保し、ありとあらゆる手段を使って改憲発議を実現しようとするに違いありません。

この「新しい段階」に入った安倍改憲策動に際し、総がかり行動実行委員会と全国市民アクション実行委員会は従来取り組んできた署名にかえて、あらためて「改憲発議阻止」に焦点を合わせた全国緊急署名運動への取り組みを呼びかけ、いっそうおおきな運動の展開をめざしています。（安倍9条改憲NO！全国市民アクション）

東久留米「九条の会」では、この呼びかけによる「改憲発議」に焦点を合わせた緊急署名に取り組みます。

改憲をめざす安倍首相は、当面、憲法96条が定める「各議院の総議員の3分の2以上の賛成で、国会が、これを発議し、国民に提案してその承認を経なければならない」にしたがって、国会発議に全力をかけてくるでしょう。「発議阻止」、これこそが当面する「緊急の課題」です。署名にご協力をお願いします。

（東久留米「九条の会」事務局）

学習会

軍隊がなくても抵抗できた
～ヨーロッパの小国の経験（要旨）

お話　内田知行さん（大東文化大名誉教授）

（文責編集部）

内田知行さん

私の専門は十五年戦争時の東アジア、中国ですが、同時代のヨーロッパにも興味があり、調べてもいました。

デンマーク王国

デンマークは好きな国で友人もいて何度か行きました。戦争の傷跡も多い国です。ドイツによる虐殺もありましたが、抵抗の歴史もありました。デンマークは王国ですが、デモクラティックな国です。平坦な国です。国会議員の年収は低く地方議員報酬なし。オンブズマン制度が定着している。そのデンマークがどうナチスと戦ったのか・・・ドイツが攻めてきたとき軍隊もありましたが、４時間で壊滅し全土が占領され、政府はドイツの保護国になりました。市民は始めはおとなしかったのですが、レジスタンス活動を始めます。僕はデンマークの歴史博物館に行き、はっと思いました。「サボタージュ」という言葉と「テロ」という言葉が使われていて、サボタージュはドイツに対してレジスタンスを実践する民衆グループによる活動です。爆弾闘争、暗殺、密輸、スパイ活動もあります。それに対するドイツの弾圧が「テロ」と言われています。これはオランダ、ルクセンブルグ、フランスもそうです。

サボタージュはさぼるという意味ではなくて、ナチ占領下の鉄道や港の爆破が代表的なサボタージュですね。それはテロとは言わないのです。アメリカは中東現地の人の戦いをテロと言ってるけど、アメリカの占領軍がやってることの方が反ナチの歴史から言えばテロなんだと思います。

デンマークの抵抗で特筆すべきはユダヤ人の救出です。デンマークの民衆が果敢な抵抗を示すのでドイツ政府が１９４３年在住のユダヤ人を一斉逮捕して収容所に送る計画を立て、十月初めに実行しようとするのですが、空振りに終わりました。コペンハーゲン在住ドイツ大使館員が情報を流し、事前に市民らの手で公共施設などに集めて、漁船やバスでスウェーデンに送られました。合計七千六百人（デンマークのユダヤ人の約90％）と言われます。これには非ユダヤ人が係わっていました。デンマークでは歴史的にユダヤ人を隣人として受け入れてきました。一番被害を受けたのはドイツ以上にポーランド、ウクライナでした。ポーランドでのユダヤ人差別は激しく、分断されていました。戦争が終わったときデンマークから逃げたユダヤ人が最初に歌ったのがデンマーク国歌で次がスウェーデン国家でした。

ルクセンブルク大公国

ロンドンに亡命した、ベルギー、オランダ、ルクセンブルクの政府が１９４４年に結んだ協定から「ベネルクス三国」の名がありますが、ルクセンブルクは三国の中で唯一軍隊

を持たない国です。１８６７年に非武装中立国になりました。第２次世界大戦ではドイツに占領されました。ベルギーとオランダが先に降伏占領されています。ドイツは占領するとゲルマン化政策、大ドイツ帝国への併合が占領方針です。ドイツ語を公用語にして新聞雑誌などからルクセンブルク語を消し、町名、道路もドイツ語化する。オランダでもそうです。

１９４１年に併合のために国勢調査を計画。「ルクセンブルク語はドイツ語の方言だ。ルクセンブルク民族はない。だから国勢調査にルクセンブルク人と書いてはいけない」という方針でしたが、それに抵抗が多いと分かり中止しました。ルクセンブルクではその日を（十月十日）は今も「国民連帯記念日」となっています。

ルクセンブルクのレジスタンス運動は非常に強固なものでした。ナチス政権は徴兵を行い、片端から捕まえてヨーロッパ戦線に送りました。それに対するサボタージュがあり多くの青年が収容所に入れられたり殺されたりしたそうです。１９４２年に22歳から29歳の男子を対象に徴兵を行い、１万２１１人が東部戦線に派遣され、２８４８人が戦病死し、徴兵を忌避して逃げてつかまり銃殺刑になった人もありました。これを描いたルクセンブルクの「反抗」という映画を見ました。都会のすぐ近くに鉱山があって廃坑にグループで隠れる描写がありました。戦争被害者ですが、爆撃、地上戦、弾圧による死者は５７００人、全人口の２％でヨーロッパでこの比率は高く、第２位でした。ユダヤ人は３７００人で強制収容所で亡くなっています。ルクセンブルクではユダヤ人を守れなかったようです。

リヒテンシュタイン公国とサンマリノ共和国

スイスとオーストリアに囲まれた小さな国です。第２次大戦中約４百人のユダヤ人難民を受け入れ、うち１５０人はスイスへ行きました。戦争末期にはリヒテンシュタインから８千人の難民がスイスへ行きました。政府はナチ協力をしませんでした。ここも軍隊のない国で、解散させたのは１８６８年で当時80人の兵士。平時における軍隊の不保持を１９２１年に憲法に定めました。ただし「武器を保有するすべてのものは60才に達するまで緊急事態における自国の防衛に奉仕する責任」があるとしています。ＮＡＴＯに兵員は出しています。

サンマリノはさらに小さい国で東久留米の４・７倍の面積人口２万８千人。イタリア建国ガルバルデイが弾圧を受けサンマリノに亡命した歴史があり、それでイタリアが建国されたときサンマリノの独立が認められました。軍隊はありません。大戦中周辺国から１万人ユダヤ人を受け入れました。中立国として認められています。ＮＡＴＯに兵を出していません。

まとめとして、これらのヨーロッパの小国は立憲主義に基づく共和主義の政治体制だったということです。王政と共存し、反ユダヤ主義を押さえて抵抗を組織、軍隊があれば抵抗できるかというとそうではない。ユダヤ人も人権・自由を与えられるべきだと支援が行われました。今、日本を見ると中国や韓国に対するヘイト、差別も起こっています。国籍、民族の違いをこえて隣人を受け入れる精神がいざというとき抵抗の精神に繋がっていくのではないでしょうか。

（九条の会新春学習会講演）

「民主主義とは何か　主権者であり続けるために」
―望月衣塑子さん（東京新聞記者）　講演会―

くらしを守る革新東久留米の会（東久留米革新懇）主催、東京新聞の現役記者の望月衣塑子さんの講演会が２月24日（月）午後6時から生涯学習センターで開催されました。

コロナウイルスの影響が心配されていましたが、４５０名を超える参加者にはびっくりです。当日券の販売のお手伝いをさせていただきましたが、参加者の４分の１以上の方が、当日券を求めていたのは当日まで何が起こるかわからない世の中の不安が影響しているように感じます。

お話が始まるとそのテンポの良さにすぐに引き込まれました。政府のコロナウイルスの対応、伊藤詩織さん民事勝訴、桜を見る会、黒川検事長の定年延長など、望月さんが実際に取材したリアルなお話に何度もうなずいてしまいました。そして、今メディアにとって何が必要なのかというお話に、私たちもしっかりとメディアを見つめていくことが大切なのだと感じました。

時間をオーバーする程のお話でしたが、レジュメはまだまだ残っていたのが残念でした。

主催者の方々には、コロナウイルスの対応、マスク、消毒液、除菌シートなどの用意をしていただき感謝でした。

（大山と）

口演中止のお知らせ

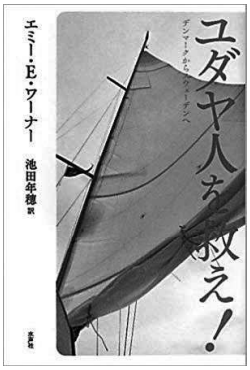
東久留米市の公共施設貸し出し休止に伴い、西部九条の会主催３月７日開催予定の口演会「八法亭みやっこの憲法噺」は、中止となりました。チケットご購入いただいた方には返金致しますので、お買い上げの所にお申し出ください。

（西部九条の会（事務局））

《平和を考える本》

『ユダヤ人を救え！デンマークからスウェーデンへ』

（エミー・E・ワーナー／作　水声社）



第２次世界大戦のナチ占領下で、国内ほぼ全てのユダヤ人をスウェーデンに逃がしたデンマーク国民の勇気ある行動。生きのびたユダヤ人たちへのインタビュー、手紙や体験記などを駆使して書いたノンフィクションである。

成就できたのは、多数の市民の利他的・自発的な行動力は元より、王家・政府による「ナチスに与しない」との表明。身の安全を顧みず情報を流し、逃亡を見て見ぬふりをしたドイツ人（兵）も少なからずいて、「天の時、地の利、人の和」に恵まれた瞬間だった。

（高田桂子）